

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2018年（平成30年度；上期）1月～6月

（出荷単位：t・%：前年同期比）

1. 2018年上期（1～6月）洗剤等の出荷実績総計概況

（全体コメント）

2018年上期（1-6月；以下上期という。）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する12社の出荷実績総計は18,235トン前年同期比99.2%・151トン減でありました。

上期総出荷実績はランドリー用合成洗剤（液体）・ランドリー用ソフターの出荷増となりましたが、出荷に大きく影響を与えるランドリー合成洗剤（粉末）の出荷減により前年割れとなりました。

項目別では出荷の増加項目と減少項目が継続しております。項目別概況につきましては、2. 顧客市場動向概況後、3. の洗剤類項目別の出荷実績で説明いたします。

2014年～2018年(上期)項目別出荷実績							
項目 \ 年度（上期：1-6月）	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	前年比	前年増減
ドライクリーニング用洗剤（パーク系）	101	88	85	75	69	92.0%	-6
ドライクリーニング用洗剤（フッソ系）	27	28	28	26	24	92.3%	-2
ドライクリーニング用洗剤（石油系）	578	571	557	540	504	93.3%	-36
ドライ合計	706	687	670	641	597	93.1%	-44
ランドリー石鹼	182	184	158	142	143	100.7%	1
ランドリー用合成洗剤（粉末）	8,485	8,734	8,859	8,913	8,636	96.9%	-277
ランドリー用合成洗剤（液体）	3,840	4,187	4,161	4,391	4,623	105.3%	232
ランドリー用合成洗剤 計	12,325	12,921	13,020	13,304	13,259	99.7%	-45
ランドリー用ソフター 計	2,336	2,430	2,534	2,620	2,727	104.1%	107
（うち濃縮タイプ）	391	382	414	432	412	95.4%	-20
ランドリー用粉末漂白剤	705	733	723	681	593	87.1%	-88
再販用合成洗剤 計	623	559	535	525	477	90.9%	-48
（うちコンパクト）	289	240	222	214	191	89.3%	-23
合成糊剤	499	506	492	473	439	92.8%	-34
上期（1-6月）総計	17,376	18,020	18,132	18,386	18,235	99.2%	-151

注記-2017年・2018年の出荷実績は加盟12社の出荷量・2014～2016年は加盟13社で出荷量を集計。

2. 顧客市場動向

当同業会の顧客は①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（ホテルリネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③貸しおしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む。）であります。

1) ホームクリーニング市場動向

ホームクリーニング市場は、2018年度上期は総務省統計局『家計調査報告』によると一世帯あたり（農林漁業世帯を含む二人以上の世帯）の平均クリーニング代支出額は、3,512円と前年同期比4円減の99.9%となりました。当同業会への出荷量の影響として、ドライ項目の継続的減少に加え漂白剤・合成糊の減少からドライ分野・ランドリー分野共に市場縮小傾向であったと推察します。

ホームクリーニングの回復策のひとつとして、過度な価格競争を回避し、家庭洗濯との品質の差別化を消費者に体感していただくことが重要と考えております。更に『衛生＝高品質』への事業活動を展開することで、社会貢献を通じた適正価格・適正利益への変革を推進いただき、下期（7-12月；以下下期という。）は上期の減額分を取り戻し前年以上のクリーニング代支出額の増額獲得を期待しております。

2) テキスタイルリネンサプライと施設ランドリー市場動向

テキスタイルリネンサプライ市場は、成熟市場の中、ホテルは訪日外客数増加による上昇傾向と新設ホテルの開業により増加傾向である一方、病院寝具・ダストコントロール・ダイアパーの市場規模は減少傾向が継続していると推察しております。

①. ホテルリネン市場に大きく関与する訪日外客数は、日本政府観光局（J N T O）の推計によると 2018 年上期は前年同期から約 214 万人増（前年比 115.6%）の 1,590 万人でした。訪日外客数の上昇傾向は継続しており、この傾向は 2020 年東京開催のオリンピック・パラリンピック以降も継続すると推察しております。この傾向に対応すべく東京・大阪といった都心部を中心に新規ホテルが開業し、ホテル市場の拡大が継続していると推察しております。

週刊ホテルレストラン調べ（客室稼働率速報）による全国 61 都市の客室稼働率 1-6 月の稼働率は、1 月 72.8%・2 月 83.3%・3 月 84.7%・5 月 80.4%・6 月 80.1%と安定的であったと推察致します。また、主要都市周辺のリゾートホテル・旅館の稼働率も安定的であったものと推定いたしております。

②. 病院寝具市場は、厚生労働省『医療施設調査・種類別病床数』調査の総数から、2015 年 167.6 万病床数からの比較で 2018 年 3 月末日 165.2 万病床数と毎年、微減傾向であります。しかしながら市場環境としては、長期的な高齢化社会の継続により比較的安定な市場と推察致します。医療施設からは、衛生的な寝具の提供要望が高まり、更に私物洗濯の依頼が増加傾向であると推察致します。また、成長ビジネス展開として、現在は入院時に必要な寝巻・タオルなどを一日単位でレンタルする「入院セット」など周辺サービスが好評で市場拡大を期待しております。

③. ダイアパー・貸しおしぼり市場は紙製品への代替が継続しており、長期的な縮小市場であり、この傾向は今後も継続すると推察致します。循環型の製品提供が可能な市場ではありますが、紙製品に比べて利便性・コストの優位性までは至っていない状況と推察致します。

④. ダストコントロール市場は、企業・生産工場・飲食店等の業務用と家庭向け市場がありますが、どちらもコスト意識の高まりにより市場規模は減少傾向が継続しております。これにより市場競争が激化し、提供価格も下落傾向となっていると推察いたします。更にリース品の交換時期が長くなり、リース製品の汚れがよりハードとなっており、ハード汚れ洗浄処方が必要となっております。結果として、洗剤使用量は安定的になっていると推察しており、洗剤の出荷量は微減に留まっていると考えております。

⑤. 施設ランドリー分野の介護施設内ランドリーは、人件費・設備投資及び修繕費の高騰傾向により外部委託が増加しているものと推察します。一方、コインオペレーション（コインランドリー）は厚生労働省の営業施設に関する調査によると増加傾向で 2013 年度は 16,693 施設で 2018 年 19,000 施設まで到達するものと推察致します。コインオペレーションの現状課題はクリーニング業法に抵触する点もクローズアップされつつあり、厚生労働省の展開は見守る段階と推察しております。

（まとめ）

ホームクリーニング市場全体の課題は、市場規模が長期・継続的に縮小する状況は、今後も継続すると推察致します。クリーニング代支出額の年間支出額の回復は期待が薄く、従来のビジネスモデルから地域密着型の新たな需要の発掘、付加価値提供への変革時期であり取引単価の引き上げ実現が必要です。

テキスタイルリネンサプライ市場全体の経営課題は、労働不足であり設備投資による省人化が急務と推察致します。また、適正価格に向けた価格改定（値上げ）の方向に動きつつあると推察いたします。

当同業会はこの分野で『衛生＝高品質』製品に向けた最適な洗浄剤類の提供により業界への貢献を果たしたいと考えております。

3. 洗剤類項目別の出荷実績

1) ドライクリーニング用洗剤（上期）

ドライ用洗剤は 597 トン前年同期比 44 トン減の 93.1%でありました。4 年前の 2014 年からは 109 トン減の 84.6%となり、ホームクリーニング分野で収益性が高いドライクリーニングの減少が継続しております。タイプ別でも、パーク系・石油系の減少傾向に変わりがなく、春の需要期に持ち込まれるドライクリーニング品の点数が減少しているものと推定されます。これにより出荷量も減少となり、ドライクリーニング離れに歯止めが掛かかっていない状況と推察いたします。

2) .ランドリー石鹼（上期）

ランドリー石鹼は143トン前年同期比1トン増の100.7%でありました。4年前の2014年から39トン減の75.6%まで減少し、上期は前年出荷量を確保いたしましたが、ランドリー合成洗剤への移行は変わらないと推察いたしております。

3) .ランドリー用合成洗剤（上期）

ランドリー用合成洗剤合計は前年同期比45トン減の99.7%となり、ここ数年のトレンドでは増加傾向で安定した分野でありましたが、粉末洗剤の出荷減を液体洗剤でカバー出来ず、2013年の出荷減以来の出荷減となりました。

ランドリー用合成洗剤の粉末タイプは8,636トン前年比96.9%の277トン減となり、液体タイプは4,623トン前年比105.3%の232トン増となりました。テキスタイルリネンサプライでは、液体薬剤による洗濯機への自動投入対応が広がり、粉末タイプから液体タイプへの移行が進んでいること、またオペレーションランドリー（コインランドリー）市場の拡大が継続していることにより、液体洗剤の出荷量が増加しているものと推察致します。

4) .ランドリー用ソフトナー（上期）

ランドリー用ソフトナーは2,727トン、前年同期比107トン増の104.1%となりました。2014年からは391トン増116.7%で増加傾向が継続しております。メインの使用市場であるホテルリネン市場が拡大傾向にあり、タオル類の生産量増加が出荷量増加に寄与しているものと推察します。また、ランドリー用合成洗剤（液体タイプ）と同様に、オペレーションランドリー（コインランドリー）ブームにより、出荷量が増加傾向であったものと推察いたします。

5) .ランドリー用粉末漂白剤（上期）

ランドリー用粉末漂白剤は593トン前年同期比88トン減・87.1%となり、2014年から112トン減84.1%となりました。2016年までは比較的安定に推移しておりましたが、昨年からの減少傾向に転じ、今期は大きく出荷減となりました。

粉末漂白剤の主ユーザーであるホームクリーニング市場で、人手不足からワンショット洗剤の使用が広がり、粉末漂白剤の使用減につながっているもの推察いたします。

6) .合成糊剤（上期）

合成糊剤は439トン前年同期比34トン減・92.8%でありました。2014年から60トン減88.0%と長期下落傾向が継続しております。リネンシーツやカッターシャツ（ワイシャツ）等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察しております。また、旅館の宿泊稼働率の上昇による宿泊客に提供する浴衣の生産量が増加するも、ソフト仕上げの傾向が定着し、出荷増への影響は起きていないものと推察致します。

7) .再販用合成洗剤（上期）

再販用合成洗剤は477トン前年同期比48トン減90.9%でありました。2014年から146トン減76.6%と長期減少傾向が継続しております。濃縮タイプも191トン前年同期比23トン減・前年比89.3%と減少しており、今後も減少傾向は継続すると予測しております。

4. 上期のまとめ

当同業会の上期出荷総計で18,235トン前年同期比151トン減の99.2%という結果となりました。ランドリー用合成洗剤液体タイプとランドリーソフトナーは出荷増となりましたが、出荷構成比の高いランドリー用合成洗剤粉末タイプの出荷減により出荷総計減となりました。

2014からは859トン増・104.9%となっており出荷減につきましては、下期の出荷概況の把握が必要と考えております。一方、ドライ項目の下落傾向に歯止めがかかっていない点では当同業会の深刻な問題と捉えております。各市場はホテル・オペレーションランドリー（コイン）は好調で、病院寝具は堅調、ダストコントロール・ダイアパーは厳しい環境の中ではありますが、各市場の成長戦略実現による下期の市場拡大を期待しております。

当同業会加盟12社は業界の発展と業務用洗剤の商品供給を通し衛生的な品質実現による末端消費者への快適性の最大化実現を前提に、企業の社会責任と倫理的責任を果たすべく、努力して参ります。今後とも、信頼のブランドを提供する当同業会加盟12社へのご支援をお願い致します。

以上